

活動報告 5. ボランティアサークル活動報告

(4) 写楽

発表者 岡本和樹(公共社会学科2年)

活動分野：写真を使った地域貢献

部員数：12名



写楽は部員同士で写真を撮りに行ったり、写真展を開催したりすることを通じて、写真の楽しさを「共有」していくサークルです。まずは自分たちで写真を楽しむこと。さらには1人でも多くの人に写真の楽しさを知ってもらうことを目標としています。

普段の活動としては、活動の打ち合わせや、撮影した写真を他の部員に紹介したりする「定例会」。部員同士や、近隣の大学と合同で写真を撮りに行く「撮影会」。自分たちの作品を発表するための「写真展の開催」。この3つが主なものとなります。また、その他にも依頼を受けて県立大生の活動風景の撮影なども行なっています。県立大生の活動風景の撮影としては、社会貢献論演習の授業風景の撮影や、他サークルの活動の記録などの活動をできる範囲で行なっています。

さらに、写楽の地域貢献活動については、最も代表的なものとして「神幸祭での撮影活動」があります。写楽では、サークルが設立された昨年度より毎年、神幸祭の撮影スタッフとして部員を派遣しています。撮影した写真は、川渡り友志会のホームページに掲載されるなど、神幸祭のPRのために活用されています。

今年は、7月から8月にかけて、神幸祭をテーマとした写真展「かけがえのないもの」を開催しました。まず7月6日から12日にかけては県立大学の附属研究所棟。その後会場を変え7月28日から8月10日にかけて、初の学外展示として伊田商店街コミュニティスペース「Ritorovo CoCoITA」にて展示を行いました。この写真展では、神幸祭に参加した人それぞれの様子、表情に注目しました。これは、祭りに密着する過程で、参加者一人ひとりにそれぞれ

のドラマがあると感じたことがきっかけとなっています。また、「かけがえのないもの」というタイトルには、「情熱あふれる表情やほころぶ笑顔、こうした人々の姿こそ、この街にとっての『かけがえのないもの』なのではないでしょうか」というメッセージを込めました。

次に、現在行なっているSNSを通じた情報発信について紹介します。写楽では、遠方の方々にも自分たちの作品を見てもらうこと、また全国の写真部同士での情報交換を積極的に行うことを目的として、Twitter、Facebook、Google+にそれぞれアカウントを開拓しています。ここでは、サークルの活動情報や田川でのイベント情報の発信、部員が撮影した写真の公開などを行なっています。例えば、田川、筑豊の風景やイベントを紹介するなどして少しでも地域のイメージアップや賑わいの創出に貢献できればと思っています。

現在はまだ構想段階なのですが、今年は、地域の福祉施設などで出張写真展のような活動を行うことで、さらに多くの方に写真を見ていただく機会を作れたらと考えています。また、もう1つの目標として、近隣の大学との協力・連携の強化があります。現在、飯塚市にある九州工業大学と合同で「筑豊地区大学写真部連盟(愛称:ちくフォト)」の設立に向けて準備を行なっています。近隣の大学同士での協力・連携を深め、筑豊をテーマにした写真展の開催など、様々な活動を行なっていく予定です。

部員名

岡本和樹、伊藤公彦、大西健太、丸山由希也、原田和弥、川合広海、香月萌望、末永夏希、杉野未季、黒木麻里、小前沙織、廣兼利来

写真サークル 写楽
活動報告
「地域に根ざしたサークルを目指して」



2013年1月29日 社会貢献フォーラム
発表:公共社会学科2年 岡本和樹

1

目次

- (1)写楽とは??(サークル概要)
- (2) 写楽の地域貢献活動
- (3) これからの目標と課題



2

(1) 写楽とは??



3

(1)写楽とは

- 2011年度に新設。現在部員12名で活動中



自分たちで「写真を撮る」こと、さらには1人でも多くの人に写真の楽しさを知ってもらうことが目標

4

普段の活動

- 定例会(毎週1回)
- 撮影会(不定期開催)
- 写真展の開催(年に数回)

その他にも

- 県立大生の活動の記録
など



5

県立大生の活動の記録

- 社会貢献論演習(2012年度後期)



講義風景の撮影、記録

6

県立大生の活動の記録

- 4/29 あすなる運動会
「つくしんぼ」サークルの活動の様子を撮影



7

(2)写楽の地域貢献



8

(2) 写楽の地域貢献

- 神幸祭での撮影活動

昨年度より、撮影スタッフとして部員を派遣
2日間で2000枚以上の写真を撮影



撮影した写真は、川渡り友志会のHPに掲載されるなど、神幸祭のPRに活用されている

9

写真展「かけがえのないもの」の開催



2012年7月6日～12日
福岡県立大学 附属研究所棟1F

2012年7月28日～8月10日
リトロボ ココイタ(伊田商店街内)

10

- 写真展「かけがえのないもの」
神幸祭に参加している人それぞれの様子、表情に注目



情熱あふれる表情やほころぶ笑顔。こうした人々の姿こそ、この街にとっての「かけがえのないもの」というメッセージ

11

- 展示中の様子



伊田の人々にとって馴染み深い神幸祭がテーマだったこともあり、地域の方々に好評を受けた
これらの写真は単なる「記録」ではなく、地域の人々にとっては大切な「記憶」の1ページなのだと感じた。

12

• エピソード



↑商店街内で写真展の宣伝をしていただいたり...



←写真に写っている本人が会場に来てくださったり...

写真展を通じて、地域との繋がりを深めることができた。13

• SNSを通じた情報発信、他大学との交流

サークルでTwitter、Facebook、Google+にそれぞれアカウントを開設

• 目的

遠方の人達とも自分たちの写真を見せよう。
全国の写真部同士との情報交換を積極的に行う。

• 活動内容

サークルの活動の情報や田川のイベント情報などの発信
web上での写真展開催など。

→田川、筑豊の風景やイベントを紹介したりしていくことで地域のイメージアップに少しでも貢献できれば

14

(3)これからの目標と課題



15

• (目標)現在行なっている活動の継続

写楽の活動は地域貢献としてはかなり間接的

→時間をかけて、しっかりと継続していくことで価値が生まれるものだといえる

神幸祭の撮影など現在の取り組みを継続しつつ、地域との繋がりをより広く、深めていけるようにしたい。

たとえば...

地域の福祉施設などで展示をすることで写真展を見に来るのが難しい人にも見てもらえるようにする...など

16

• (目標)近隣の大学との協力・連携

飯塚市にある九州工業大学と協同で「筑豊地区大学写真部連盟(愛称:ちくフォト)」の設立に向けて準備中。

近隣の大学同士で協力して、筑豊をテーマにした写真展の開催など様々な活動を行う予定

→写真を通じて筑豊を盛り上げていけるような組織にすることが目標

17

• (課題)後継者不足

現在の部員は全員が2年生

→このままいくと、現部員の引退と同時にサークルを解散しなければならないことに。

活動の長期的な見通しが立てられないだけでなく、これまで築いてきた繋がりが失われることになりかねない。

現1年生や来年度の新生を中心に後継者の確保に努めなければならない

18



活動継続のため...

- ・写真を撮るのが好きな人
- ・写真を見るのが好きな人
- ・何かあたらしいことを始めたい人
...を募集しています。

もし心当たりのある方がいたら
紹介していただけると幸いです。

19



20

以上です。ありがとうございました。

活動報告 5. ボランティアサークル活動報告

(5) 防災学習会

福岡県立大学災害図上訓練指導員養成講座 ～学びと課題～

発表者 浦野光司(看護学科3年)、看護学科養護教諭課程

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、今月で18年目を迎え、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、間もなく発生から2年が経過します。私たちは、報道を通じて震災や台風などの自然災害の様子を見聞きすることで、防災意識が高まります。しかし、一時的な関心に終わってないでしょうか。それは、災害当時の現地に居合わせることは無く、また私たちが住む田川市周辺では災害が発生していないことから防災に対する意識が一時的な関心で終わっているように感じます。

今回、私たちは、全3回で開催される福岡県立大学災害図上訓練指導員養成講座を受講しています。災害図上訓練 DIG(Disaster Imagination Game)とは、参加者が地図を囲み、書き込みを行いながら、議論することで、わが町に起こりうる災害像をより具体的にイメージすることができる防災教育です。この講座は、講演と講義、実習を通して地域防災活動の在り方について考え、実際に災害が発生した場合に地域の被害状況を踏まえた避難経路の確保、要援護者の避難方法について学びます。この講座を終えると、福岡県災害図上訓練指導員修了書が与えられます。

まず第1回は、平成24年10月27日(土)に「伊田校区防災講演会」として伊田校区の住民の方々と一緒に参加しました。講演のなかで印象深い言葉は、「自助・共助・公助」です。その意味は、自助として各家庭が災害に備える必要があることです。次に、共助として地域住民による助け合いを行うことです。最後に、公助として行政が災害後の後方支援を行うことです。また、講演のなかで、「災害が起こった際どこにどの程度の被害が発生するのかを想定することが大切である」とありました。田川市によって作成された「田川市洪水ハザードマップ」によ

ると、英彦山川が氾濫した場合、福岡県立大学敷地で50cm未満、大学周辺では1~2mの浸水が想定されています。予測値として数値だけを考えるのではなく、具体的に考えると非常に困難な状況に陥ることが想像できます。例えば、大学周囲の住居は1階部分が浸水しており、大学敷地内でも膝丈程度の浸水です。洪水が日中に起これば、校舎内に多くの学生、教職員が取り残される事態が発生するということが想像できます。その際の学生、教職員に対する避難マニュアルや地域住民の避難受け入れは可能なのか。あるいは、食糧や飲料水の確保など明確でないことが具体的に想定できます。災害を具体的に想定することで、現時点での防災に向けた取り組みを評価することも出来ます。

次に第2回は、平成24年11月28日(水)に「福岡県立大学災害図上訓練指導員養成講座」として行われました。講義は、「災害図上訓練の考え方と概要」について行われ、実習として、災害図上訓練の方法を田川市の地図を用いて指導を受けました。実際に図上で洪水時の浸水箇所を明確にし、避難経路を考えました。また、コンビニエンスストアや商店など物資調達が可能であると判断できる施設や避難可能施設の場所を確認しました。地域での要援護者の避難経路、避難に必要な物資を確認することも出来ました。

参加した学生の学びとして、「災害に一番大切なものは『備え』であることを改めて実感しました。また、災害が起きた時に、まずどこへ連絡をするのかなど関係機関との連携も日頃からしっかり結んでおくことが大切であると思いました」。また、災害図上訓練実習からは、「図上訓練の講習を受けて、私は住んでいる町の隠れた危険に目を向けられていなかったのだな、と感じました」や「災害が起きた時を想定して災

害時要援護者にどう対応するか、優先すべきものは何か、など地域の実態の把握も含め、予防・対策を考えておくことの重要性を学ぶことができました」、「自分たちの住む地域のどこが危険箇所であるのか、地震や水害など災害によって避難経路がどのように変わるのかなど視覚的に見ることができ、自分たちの地域をまた別の視点から考えることができることを学びました。特に、私たちのような地元ではない人にとっては、この実習を通して地域のことを知ることでできました」などがありました。

今後の課題については、「自分の住んでいる地域における災害時の危険を把握しておく必要があると感じました」や「災害が起こっていないときに災害が起きたときのことを考え、自分の身の周りだけでなく地域も含めて、守れるように備えておくことが重要なのだと学びました」、「自分の住む地域住民の方々と協力して、どんな災害でも対応できるように備えていくことが、自分も地域の住民の方々も守ることができるのだと考えました」と学生は考えています。

最後の実習である、第3回は、平成25年3月23日(土)に開催されます。そこでは伊田校

区を実際に歩きながら危険個所の確認や避難経路の検証を行う予定です。

今回の講演と講義、実習で学んだ知識は大学内や大学周囲の伊田校区における防災に役立たいと考えています。具体的提案として、大学内においては、災害時に学生、教職員が要救助者とならない為に各災害に応じた対応方法を検討し、周知することが必要であると考えます。さらには、自分の体は自分で守ることや救急処置をはじめ心肺蘇生法などを一人でも多くの学生が身につけることができるような取り組みも必要であると考えます。そのことは、医療、福祉のスペシャリストを輩出する福岡県立大学の理念とも一致すると考えます。また、伊田校区においては、各災害別の避難誘導や救援活動、避難所でのボランティア活動などをスムーズに実施できる為に学生、教職員が校区の防災活動へ参加することで防災組織、地域住民との連携を深める必要があると考えます。また、私たちが卒業後に就職する医療・福祉施設や学校などでは、災害が発生すれば要援護者となる方々が多くおられます。私たちは、防災意識の高い人材として組織や社会に貢献したいと考えます。

福岡県立大学 災害図上訓練指導員養成講座 ～学びと課題について～

発表者 福岡県立大学
看護学科 3年 浦野光司

1

阪神・淡路大震災（平成7年1月17日）



東日本大震災（平成23年3月11日）

2

災害図上訓練指導員とは？

災害図上訓練 DIG(Disaster Imagination Game)

参加者が地図を囲み、書き込みを行いながら議論することで、わが町に起こりうる災害像を具体的にイメージできる防災教育である。



3

第1回 伊田校区防災講演会

平成24年10月27日（土）

講演
「地域防災のススメ
～家庭・地域でできること～」

講師
山口大学大学院准教授 瀧本 浩一 氏

4

第1回 伊田校区防災講演会

平成24年10月27日（土）

「自助・共助・公助」

自助：各家庭が災害備える
共助：地域住民による助け合い
公助：行政による災害後の後方支援

「田川市洪水ハザードマップ」

英彦山川氾濫
大学敷地内：50cm浸水
大学周辺：1～2m浸水



5

第2回 災害図上訓練指導員養成講座

平成24年11月28日（水）

講義
「災害図上訓練の考え方と概要」について

実習
「災害図上訓練」



6

第2回 災害図上訓練指導員養成講座

平成24年11月28日(水)

講義、実習の学び (参加学生の声)

「災害に一番大切なものは『備え』であり、
関係機関との連携が重要である」

「町の隠れた危険に
目を向けていなかったと気が付いた」

「地域の実態把握も含め、
予防、対策を考えることが重要である」

「図上訓練で、視覚化することが重要である」

7

第2回 災害図上訓練指導員養成講座

平成24年11月28日(水)

今後の課題 (参加学生の声)

「自分の住んでいる地域における
災害時の危険を把握する必要がある」

「災害が起こってない時にこそ
地域を含めて備えることが重要である」

「地域住民と協力して
どんな災害にでも
対応する準備が必要である」



8

第3回 地域での街歩き

平成25年3月23日(土)

伊田校区を実際に歩く事で、

危険個所の確認

避難経路の検証



9

提案

1. 大学内
各災害に応じた対応方法の検討
学生・教職員への周知
→要救助者にならない
2. 地域 (伊田校区)
学生・教職員の地域防災訓練への参加
→スムーズな避難誘導、救助活動
避難所でのボランティア

10

寄せられた感想

<学生から寄せられた感想>

- ・私は特に幸田さんの赤村のお弁当の調査が印象に残りました。お弁当の販売のお手伝いをするなかで、自分なりに課題を見つけ、改善しようとする姿が素晴らしいと思いました。同じ学生の皆さんが、それぞれに社会貢献活動をされていることを知らなかったのが、今回このような社会貢献フォーラムで知ることができ、とてもよかったです。このような場に学生がもっと参加することで、活動している学生から刺激を受け、活動が広がっていくのではないかと思います。
- ・3年生2人の分かりやすく、飽きさせない発表を聞いて被災地支援、ボランティアについて理解を深めることができました。被災された方にとって、当時のことは決して過去のものにはなっていないこと、だからこそ自分に出来ることを考えて実行することが大切だと実感した。
- ・3年生2人の活動を知っていたが、今回の発表で、復興ボランティアについて詳しく知ることができた。18きっぷでの旅は、とても時間がかかるが、色々な人との出逢いがあった、充実した旅になるような気がした。他にも多くの学生の活動報告を聞くことができてよかった。私も1~3年の間に主体的に何か活動していれば、今以上に学生生活が充実したものになっていたのではないかと思います。
- ・他のサークルの活動を知ることが出来て良かった。赤村のお弁当は、私も“お気に入りのお弁当”なので今後も活動を頑張ってもらいたいと感じた。
- ・今回社会貢献という大きいテーマで、様々な視点からの報告や意見が聴けて、現状がよく分かりよかったと思います。一方、Ritorovo CoCoITA や赤村のお弁当の学生の認知を広げるためにも、社会貢献フォーラム開講の詳細を学生へ広め、参加をより呼びかける必要があるのではないかと思います。私も残りの学生生活を、社会人になるための準備時間と

して、学びや人との出会いを大切に、充実した日々を過ごしていきたいです。

- ・様々なボランティア活動内容、今後の方向性を聴くことができ、とても貴重な時間になった。
- ・東日本大震災ボランティアのお話が印象的でした。同じ大学生なのに、とても行動力があって尊敬、共感できる部分が多くありました。
- ・Ritorovo CoCoITA についてあまり知らなかったのが、今日の報告を聞いてよかったです。今度利用したいと思います。
- ・被災地へのボランティアの話がとてもおもしろく、すごいなと感心しました。
- ・様々な学生活動を知ることができた。いろいろな学生活動をしていることを知り、刺激を受けました。
- ・発表している際、または、後ろから見て、学校関係者の居眠りがとても不快に感じました。
- ・自分がしたいと思うことを素直に挑戦できるその行動力が本当にすごいと思います。自分も悔いのないよう、やりたいこと、やれることを積極的にしていこうと思いました。
- ・ボランティア活動について、実際に行った人の話を聴いたのは、初めてだったので、とてもわかりやすく、震災についてまた、考えさせられました。
- ・ボランティアサークルといっても様々な地域貢献のあり方があるのだと思いました。次回には、より多くのサークルが情報発信できたらいいなと思いました。
- ・社会貢献と聞くと、とても大きく、どこか遠いものに思えるけれど、一人ひとりが自分のできる範囲で取り組めることはたくさん考えられると思った。何事においても、“できるだろうか？”と迷うよりも、まず行動してみる大切だと考えた。
- ・他のサークルやボランティアの活動を知るいい機会になりました。

- ・県大生のさまざまな社会貢献活動を知る良い機会でした。もっと広い教室で多くの人に聴いてもらいたいです。
- ・同じボランティアサークルでも活動内容をよく知らなかったなど改めて感じました。今回5つのサークルのみの発表でしたが、次回はもっとたくさんのサークルからも参加し、情報の共有ができればいいなと思いました。
- ・様々な活動がいたるところで行われていて、おもしろく感じた。もっと多くの学生が知って欲しいと感じた。

<一般の方から寄せられた感想>

- ・学生から地域の方々へ発信する事柄、逆に地域の方から学生に向け発信する事柄の、双方向からのテーマが多く出てると、それぞれの力を生かしてもっと地域が活性化していくと思います。
- ・大変興味深く、有意義でした。
- ・全体を通して発表が自己満足（卒業目的か？研究目的の研究か？）になっていないか…。

地域と本当の貢献の連携密度と結果が一致しているか。発表が上手く知らない分野の話で感動したし勉強になった。(誰)が(何の)研究の発表の結末まで行くと大変満足したと思う。地域密接が遊びと直結したらどうか？

- ・学生の皆さんの地域貢献に対する想いが高いことに大変感動しました。
- ・資料のまとめ方、発表のやり方も非常にすばらしくよかったです。特に学生の調査報告は内容がよかったですと思います。1つだけ知りたかったと思うことは、Ritorovo CoCoITAの「あまり利用したいと思わない」の理由があればさらによかったと思いました。阿部さんの話し方、間の取り方も非常によかったです。
- ・感動という言葉に、うとい私ですが、今日は本当に感動しました。若者たちが前向きに懸命になっている。このような若者が田川でたくさん増えるともっと活性化するのかなと思っています。若者に負けないように頑張っで行きたいです。追伸 若者たちすごいな。

社会貢献フォーラムの活動の流れ







就業力向上支援推進会議

人間社会学部長	小松啓子 ¹
人間社会学部一般教育等准教授	森脇敦史 ²
人間社会学部人間形成学科准教授	岩橋宗哉
人間社会学部一般教育等准教授	Gale Ian Stuart
人間社会学部生涯福祉研究センター准教授	中村晋介
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
人間社会学部一般教育等准教授	水野邦太郎
人間社会学部准教授公共社会学科	三隅讓二
人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎
人間社会学部社会福祉学科講師	奥村賢一
人間社会学部公共社会学科講師	永田 瞬
人間社会学部社会福祉学科助教	松岡佐智
人間社会学部人間形成学科助手	岡村真理子
学生支援班	樺田年春
学生支援班	樋口俊輔
教務企画班	浦 悠子
就業力向上支援室	堀内洋一
就業力向上支援室	箕田 岬

オブザーバー：福岡県立大学 副理事長 田中豊司

¹委員長、²副委員長

社会貢献・ボランティア支援センター運営部会

人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎 ¹
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
人間社会学部公共社会学科講師	堤圭史郎
人間社会学部人間形成学科講師	鷺野彰子
看護学部ヘルスプロモーション看護学系講師	三並めぐる
看護学部臨床看護学系助手	坂田志保路
地域支援員	堀内洋一
社会貢献・ボランティア支援センター専門研究員	原口智子

¹委員長

就業力向上支援室

インターンシップ指導スタッフ	堀内洋一
インターンシップ指導スタッフ	田上裕子
事務補助員	箕田 岬

学生スタッフ

阿部 巧	岡本和樹	幸田莉子	原田和弥	馬場友美
本田菜津子				

(50音順)

社会貢献フォーラム 学生たちの新たな挑戦 報告書

編 集 就業力向上支援推進会議

発 行 公立大学法人 福岡県立大学 就業力向上支援室

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田 4395 番地

TEL 0947-42-1321 (直) FAX 0947-42-1321 (直)

この報告書を無断でコピーまたは他に使用することを禁じます。



FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY